

## 1945年8月15日以後の朝鮮半島

### 광복절光復節(1945年8月15日)

朝鮮が日本の統治から脱し自主独立を取り戻した。  
1910年8月29日日韓併合以降36年間日本による植民地支配が続くが、日本の敗戦と同時に韓国は解放を迎えた。

### 군정시대軍政時代(~1948年8月15日 韓国)

朝鮮半島は、38度線を境に、米・ソ連 連合軍2か国軍による占領統治。  
李承晩大統領が政権を確立するまでには、南独自の選挙反対・米軍政抗議等による様々な抗争が起こる。

대구 10.1 사건 大邱10月事件(1946年10月1日)  
제주 4.3 사건 済州島4.3事件(1948年4月3日~)  
여수・순천사건 麗水・順天事件等。(1948年10月19日~)

南のみの単独総選挙実施(1948年5月10日)

### 大韓民国樹立宣言(1948年8月15日)

### 第一共和国

マッカーサーGHQ 総司令官臨席のもとで、8月15日に李承晩が大韓民国の樹立を宣言し、大韓民国は公式的に独立国となった。ただし、大韓民国最大の後援者であるアメリカ合衆国政府は、1949年1月まで大韓民国の公式的な国家承認を延期していた。

ソ連が撤退し、1948年9月9日朝鮮民主主義人民共和国独立宣言

### 육이오 한국전쟁 朝鮮戦争勃発(1950年6月25日~)

北朝鮮、38度線を越えて韓国に侵入

↓  
6月28日ソウル占領 釜山まで迫る勢い

↓  
9月15日米軍仁川上陸作戦 中国も人民義勇軍派遣 一進一退を繰り返す

↓  
1953年7月27日 휴전협정休戦協定

### 이승만 李承晩政権(1948年7月20日~1960年4月26日)

独裁色の強い政治。反対派を肅正・朝鮮戦争時避難等政権を維持するために様々な弊害が起こる。  
西北青年会の横行や保護、旧親日派の擁護、国民補導連盟加盟者の大虐殺 etc

↓  
1960年3月15日、大統領不正選挙が問題となり、野党・国民の批判が公然化、4月19日大規模デモ

↓  
4月26日下野表明。5月29日ハワイ亡命 **四月革命**

### 第二共和国(1960年4月26日~1961年5月)

第一共和国期の反省から議院内閣制が採用され윤보선[尹潽善]が大統領・정면[張勉]が國務総理に就任。政治的混乱の末、5・16軍事クーデターが発生。

## 5・16軍事クーデター～第三共和国(1961年5月16日～1972年)

1961年に成立した軍事政権である国家再建最高会議が、民政に復帰することにより成立した。この間、軍事政権の有力者であった박정희[朴正熙]が、軍の要職を辞して文民として大統領職に就き、任期を重ねた。

1971年の大統領選では、野党新民党の金大中と競い、辛勝して三選を果たしたが、続く国会議員選挙で新民党が躍進したことから、再度の憲法改正が不可能になった。そのため、1972年10月15日に「特別宣言」を発表、同時に非常戒厳令を宣布して憲法の効力を一部停止した上で、憲法を改正した（十月維新）。11月21日の国民投票での憲法改正案承認を経て、政体を第四共和国へと改めた。

1965年日韓基本条約締結

## 第四共和国(1972年10月17日から1979年10月26日)

戒厳令司令部の布告によって大学は休校、新聞や放送などマスメディアには事前検閲が敷かれた。こうした中、1週間後の10月27日、大統領の任期6年と重任制限の撤廃を旨とする憲法改正案が公告され、翌11月21日に行われた国民投票で9割以上の賛成票で改憲案は成立。

12月15日に統一主体国民会議を構成する代議員選挙が行われたが、立候補資格が厳しく、当選者はほぼ政権支持派で固められた。そして同月23日に統一主体国民会議第1回会議が行われ、唯一の立候補者であった朴が大統領に当選した。こうして第四共和国体制が出帆することとなった。

1979年10月26日の金載圭が起した朴正熙暗殺事件まで続く。

漢江の奇跡を産む  
1973年8月8日  
金大中事件

## 第五共和国(1981年3月から1988年2月)

朴正熙暗殺事件⇒崔圭夏が大統領に就任

「ソウルの春」と呼ばれる民主化ムードが続いていた。

1979年12月12日、韓国軍戒厳司令部合同捜査本部長の전두환[全斗煥]将軍による肅軍クーデターで韓国軍を掌握し、盧泰愚を中心とする新軍部勢力と共に実質的な権限を握る。

↓

大規模デモ（独裁的な政府の支配に対する強硬な抗議）

↓

1980年5月17日全将軍による戒厳令を布告

↓

5月18日光州事件発生⇒軍部による徹底的な弾圧

↓

8月27日に全斗煥が第11代大統領に就任

↓

10月27日第五共和国憲法が採択・制定

↓

1981年3月3日に全斗煥が第12代大統領に就任

## (参考) 全羅道と慶尚道の間対立

後三国時代より全羅道と慶尚道の間対立

↓

5・16軍事クーデターで朴正熙が政権を掌握

↓

朴大統領の出身地域である慶尚道地域をインフラ整備や経済開発・官公庁人事で優遇し、反対に全羅道地域が冷遇され、慶尚道地域に対する反発が生まれ、政権側も選挙で全羅道に対する対抗意識を煽ったことで、地域対立に拍車がかかることになった。

↓

1980年の光州事件が全斗煥政権によって「暴動」と認識されたことによって、地域対立は決定的なものになった。

↓

1987年民主化以後も対立は続く